

## 平成22年度 森プロ事業実績：飛騨高山森プロ

(平成22年3月末現在)

	H21年度		H22年度			5力年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	50	126	50	40%		348	
作業道(m)	7,215	7,000	7,288	104%		25,000	
間伐等	面積(ha)	27	74	45.6	62%	利用+切捨	309
	材積(m3)	4,998	2,700	4,877	181%		11,100
備考							

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 2,000 円/m3

## 施業集約化の状況

- 各地区で地域施業集約推進委員を任命しその方を中心に平成22年11月末までに所有者同士で境界の杭打作業を完成した。その後、森林調査に基づき森林施業提案書で契約した。

第11号
地域施業集約推進員証
氏名： 住所：
飛騨高山森林組合地域施業集約推進員を委託します。
委託期間：委託日から平成 23年 2月 28日まで
平成22年7月30日
飛騨高山森林組合 内木 彦治

## 施業プランの活用状況

- 提案書を作成して、所有者と事業契約を進めている。

## 施業プランナーの養成状況

- 昨年に引き続き、現地調査等通じて1名育成中である。
- 森林整備職員も徐々にではあるが、指導中である。

## 作業道の状況

- 昨年度よりも伐開幅を狭める努力をした。(伐開幅をテープで表示)
- 当組合の林業機械は0.45mペースであり、10tトラックが直接入り運び出せるようするため今年度も3.6mを基本とした基幹道を開設した。
- 引き続き、路網線形は、スイングヤーダによる集材距離を30m以内を目標に配置した。
- 7.288mを開設し、フォワーダ道、トラック(10t)が入れる規格及び路盤を確保した。
- 山作り、森林整備はまず道作りからと考え、ha当たりの路網密度は100m以上を目標にした。
- 安定した路盤を確保するため昨年に引き続き、団地内にて山土砂を確保し路網開設コストを抑えられた。



開設状況



開設幅を最小限に(幅テープ表示)

作業システムの状況 H22 木材生産性 5.2m<sup>3</sup>/人・日

- ・作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(グラップル0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→グラップル0.45(積込)
- ・作業道開設→伐倒(チェーンソー)→集材(スイングヤーダ0.45)→造材(ハーベスタ0.45)→搬出(フォワーダ4t)→グラップル0.45(積込)

取り組んだ内容

- ・路網密度の目標をha当たり100m以上に設定した結果、グラップルによる直接集材が7割程度となった。



その他

- ・『美しい森林づくりin飛騨高山』というタイトルで、飛騨農林事務所・高山市・飛騨森林管理署が共同で研修会を開催した。
- ・高山市森林づくり委員会・飛騨高山森林組合の主催により、高山市民を主な対象とした研修会を森プロ団地で2月27日に開催した。
- ・説明の内容は、高密路網開設による高性能林業機械を駆使した低コスト搬出間伐(現地研修会)及びパワーポイントによる間伐及び補助金等の概要(世界民俗文化センター)。
- ・その他各地域の林業グループ等による現地研修会を受け入れた。
- ・5月21日 県庁、飛騨農林事務所同行で森プロ団地を視察。
- ・6月17日 中部森林管理局次長他3名が視察。
- ・6月28日 施業集約推進員現地研修。
- ・7月9日 JICA視察。
- ・8月26日 鹿児島県庁4人が視察。
- ・9月1日 ドイツ研修生1人が視察。
- ・9月9日 岩手県視察。
- ・10月8日 森林文化アカデミーが視察。
- ・11月8日 中津川市苗木財産区が視察。
- ・3月22日 武儀町財産区が視察。



森林文化アカデミー視察

融雪後の森林巡回結果について

- ・巡視した結果、今冬も豪雪であったが、間伐後の林分では雪害は確認できなかった。
- ・作業道についても同様に、路肩決壊等の被害は確認できなかった。
- ・冬期行った間伐による路面の損傷がみられた。路面整備が必要である。

森プロの成果 昨年に引き続き同様の成果が得られた。

森林組合と森林組合員との関係

- ・ 個別折衝で路網の必要性及び路網密度の重要性を理解していただき、計画以上に開設できた。
- ・ 個別に施工箇所を見てまわり、森林にあった提案を行い事業を進めることができた。

森林組合について

- ・ 今までの現地研修会等の成果を生かし、当森プロ団地に限らず、各地区に集約化団地を計画し、今後、高山市全体で展開できるきっかけとなった。
- ・ 各地区の地域施業集約推進委員会を中心に境界の杭打作業またその後、森林調査に基づき森林施業提案書を提出する流れができた。

森林組合と飛騨農林事務所等との関係

- ・ 路網の線形、工法について県からの指導を受けコストを抑え、環境的にも優しい路網を配置する事ができた。

JV構成員について

- ・ 日和田林産(有)及び(有)山下林業については、昨年に引き続き搬出間伐を実施した。技術的に昨年度よりも立木への損傷が少なく作業を実行する事ができた。

今後の課題

- ・ 造林補助制度が大きく変わり、各地に第2, 第3の森プロを団地を作ることが急務とし飛騨地域の森林管理を進めていく上で森プロ団地を推奨していきたい。
- ・ その為にも各地の森プロ団地で組合員を対象とした研修会を開催し、地域の森林整備を進めていく。